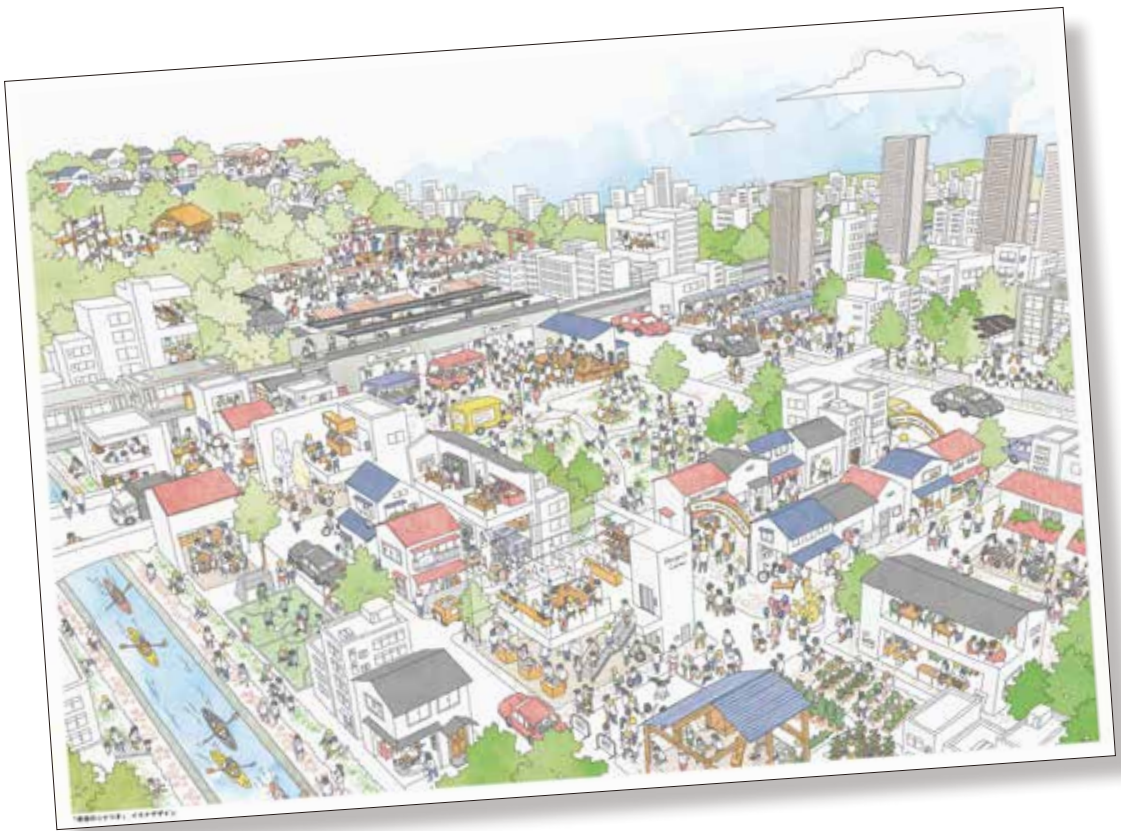


# まちのひろば ひらきかた手帖



# 目 次

■ 「まちのひろば」って？ .....	1
■ なぜ「まちのひろば」が必要なの？ .....	1
■ かわさきの10年後の未来【希望のシナリオ】.....	2
■ 地域にひろがる「まちのひろば」 .....	4
■ 「まちのひろば」のすすめ .....	6
■ 「まちのひろば」に参加してみよう！ .....	7
■ つくってみよう！「まちのひろば」 .....	8
■ 「まちのひろば」お役立ち情報 .....	10
■ 「まちのひろば」実践例を紹介します！ .....	12
■ 「まちのひろば」を応援する川崎市の取組 .....	13

# 「まちのひろば」って？

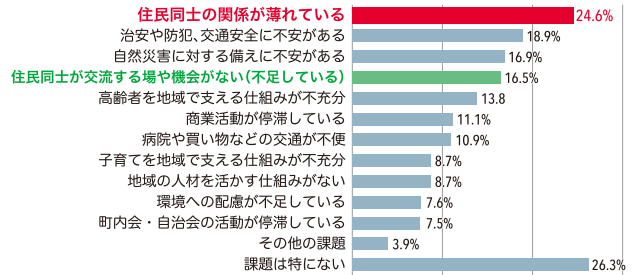
## ■「まちのひろば」って？

目的がなくても、誰もが気軽に集える場であるとともに、活動中の人々やこれから頑張りたいと  
思っている人にとってつながりを作り、「コトおこし」のきっかけとなる地域の居場所のことです。

## ■なぜ「まちのひろば」が必要な？

### ○地域のつながりがなくなっている？

平成29（2017）年度に実施した市民アンケートでは、地域の課題として、「住民同士の関係が薄れている」がトップとなり、地域コミュニティの希薄化が進行する中、これからのコミュニティのあり方が問われています。



出典：平成29（2017）年度かわさき市民アンケート



出典：「友達の数で寿命はさまる」（石川善樹 2014）を参考で作成

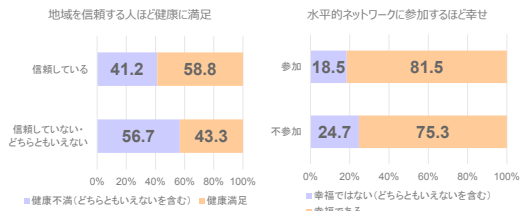
### ○つながりが最も寿命に影響する！？

健康でいるためには、「タバコを吸わない」、「飲み過ぎない」、「身体を動かす」以上に、誰かと「つながりがある」ことが寿命への影響が大きいという調査結果があります。

### ○地域を信頼する人ほど幸福度が高い！？

東京大学社会学研究室による「川崎市の地域包括ケアシステムに関する市民意識・実態調査」では、地域への信頼が高い人ほど健康に満足しており、水平的ネットワーク（ボランティア、スポーツ、趣味のグループのいずれか）に参加するほど幸せという結果になりました。

### 「川崎市の地域包括ケアシステムに関する市民意識・実態調査」

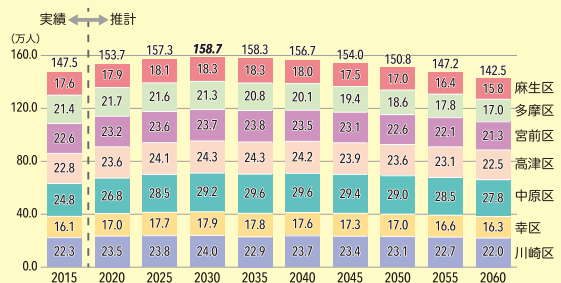


出典：平成30（2018）年度 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部社会学研究室による調査

### ●変わっていくわたしたちの暮らし

川崎市は、政令指定都市の中で高齢化率が低い都市ですが、将来的には、超高齢化、人口減少社会が到来します。

人生100年時代を迎える中、誰もが自分らしい豊かな人生を選び、住み慣れた地域で暮らし続けることができる取組が必要です。



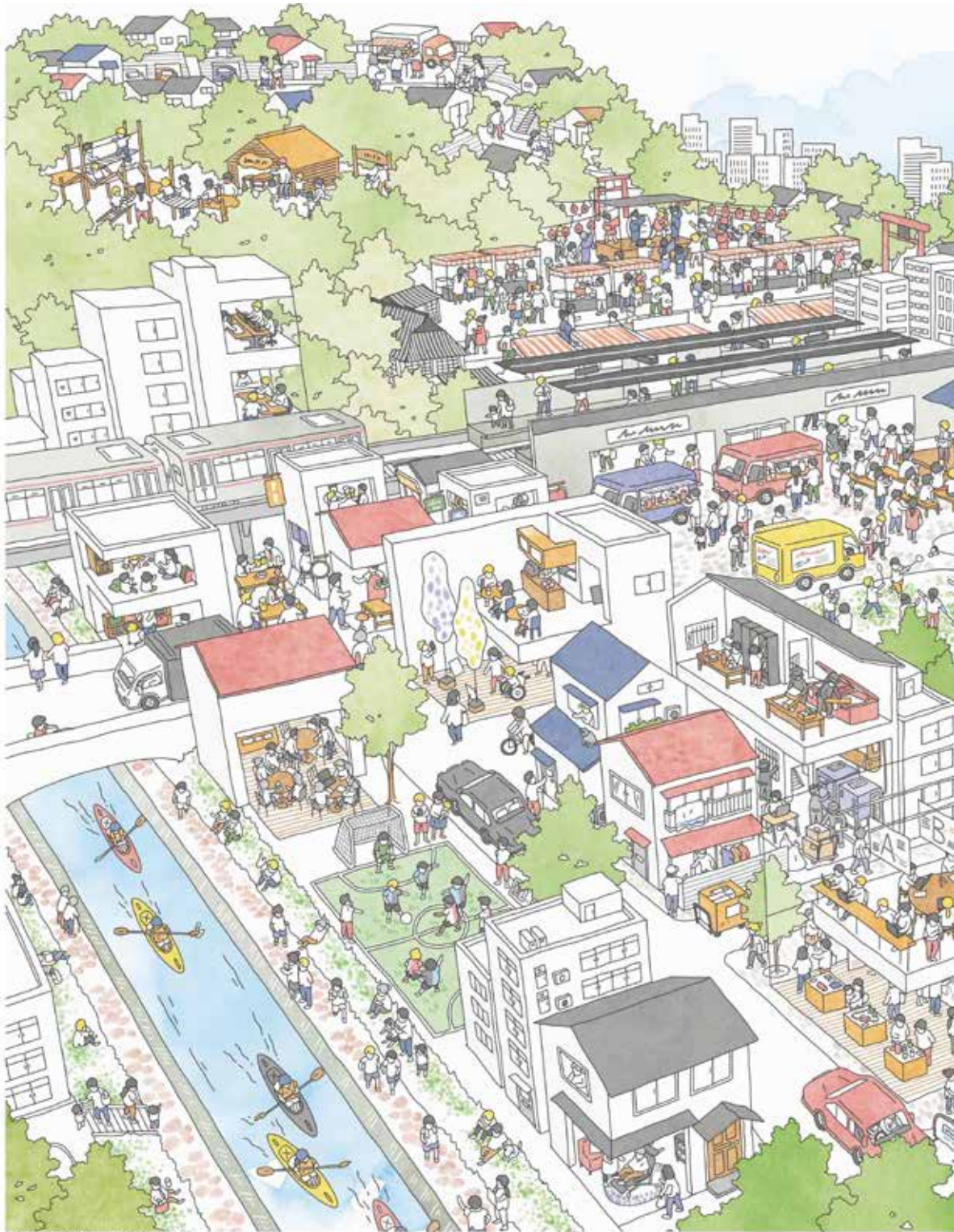
出典：川崎市将来人口推計



## ■かわさきの10年後の未来【希望のシナリオ】

川崎市ではこれから迎えるたくさんの暮らしを取り巻く変化に対して、悲観的な未来ではなく、市民の皆さんと一緒に目指したい10年後の川崎の未来「希望のシナリオ」を描きました。

「希望のシナリオ」の実現に向け、「**市民創発**」による持続可能な暮らしやすい地域を実現するため、平成31（2019）年3月に「**これからのコミュニティ施策の基本的考え方**」をまとめました。

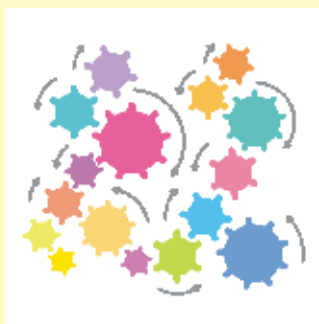


「希望のシナリオ」：イスマデザイン

## ●市民創発って？

いろいろな人や団体会い、つながることで様々な化学反応が起こります。

この化学反応がこれまでにない活動や予期せぬ価値を創出します。このポジティブな相互作用により持続可能な暮らしやすい地域をつくります。



【市民創発のイメージ】



## ■地域にひろがる「まちのひろば」

「希望のシナリオ」をのぞいてみよう！

誰もが気軽に集える地域の居場所として、「まちのひろば」が広がります。

### 森の遊び場(プレーパーク)

ワクワク・ドキドキ、  
子どもたちは遊びの天才！  
自然の中で想像力を育みます。

### 移動店舗

買い物に行くのが大変な  
高齢者等の強い味方。  
お客と販売員、お客同士といった  
つながりをつくります。

### 居酒屋街

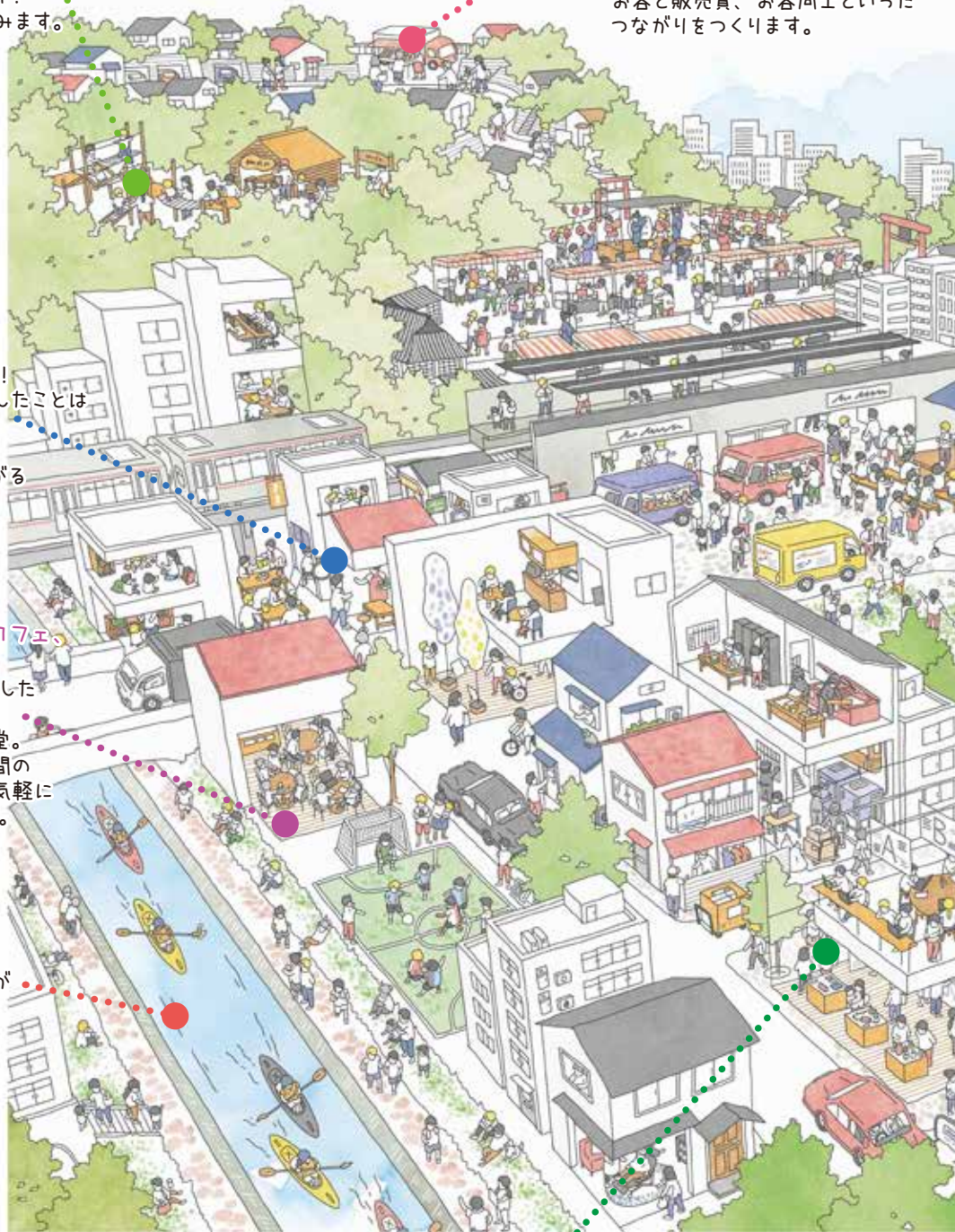
居酒屋は大人の社交場！  
見知らぬ人と意気投合したことは  
ありませんか？  
飲む人も飲まない人も  
楽しみながら人につながる  
出会いの場です。

### 町内会館、認知症カフェ、 こども食堂、縁側

町内会館や自宅を開放した  
認知症カフェ。  
こども食堂はまちの食堂。  
家の中と外をつなぐ空間の  
縁側も使って、誰でも気軽に  
参加しやすくしています。

### 河川空間、河川敷

水辺では思い思いの  
アクティビティ(活動)が  
行われています。



「希望のシナリオ」：イスナデザイン

### ソーシャルデザインセンター

人や団体・企業、資源・活動をつなぐコーディネート機能  
やプロデュース機能などを有し、まちにちょっと新しい何  
かを生み出す空間です。

## 音楽フェス

イベント時等は音楽の演奏でいつもの場所が特別な場所に。非日常体験がまちの遊び心を満たす、これも一つの「まちのひろば」です。

## マルシェ

生産者と消費者の出会いの場。物や言葉のやりとりから何か生まれ、まちの空気が変わります。

## 防災訓練

その日に備えて。誰もが関心のある防災。防災訓練をきっかけに顔の見える関係を築きます。

## 商店街

地元商店街の私のお気に入り。行きつけのお店ができれば、そこに行くだけでほっとできる地域の居場所。自然と井戸端会議が始まります。

## コワーキングスペース

地域での新しい働き方を提案。色々な分野の人たちと刺激し合い、つながることで、新たなビジネスが生まれ、地域の活性化につながる(かもしれない!?)。

## シェア農園

まちを耕す。育てる喜び、食べる喜び、分け合う喜び、楽しさもシェア。手塩にかけて丁寧に丁寧に。仲間づくりと一緒に。

## 古民家改修、DIY、ゲストハウス

空き家をDIYでリノベーション(修復、再生)。誰もが気軽に集える出会いの場や、地域活動の場として生まれ変わります。

# 「まちのひろば」のすすめ

「まちのひろば」は、多様なつながりを育む地域の居場所です。「まちのひろば」が広がり、いろいろな人がつながることで、新しい活動のきっかけになったり、地域の支え合いの場が生まれます。

## ○日常のサードプレイスに

家庭、学校、職場以外にも、いつでも気兼ねなく立ち寄れる場所があることで、日常の生活に広がりを持つことができます。

## ○困ったときの助け合いに

地域で顔の見える関係があることによって、災害時など困ったことが起きた時、お互いに助け合うことができます。

## ○まちに住む楽しさが広がる

まちに知り合いが増えることで、そこにしかない地域とのつながりを持つことができ、住んでいるまちがちょっと特別になります。



## ●「まちのひろば」を探してみよう！

「まちのひろば」に興味を持ったら、「まちのひろば」を探してみよう。既にまちなかにはたくさんの「まちのひろば」が広がっています。



例えば、まちなかのベンチで…



日常の買い物での1コマや…



町内会の防災訓練や  
お祭りに参加したとき…

3人集まって会話が生まれると、もうそこは「まちのひろば」の一つです。





# 「まちのひろば」に参加してみよう！

はじめは既にある「まちのひろば」に参加してみるのも良いかもしれません。新たなつながりづくりのきっかけになります。たくさんある「まちのひろば」のうち、いくつかの取組をご紹介します。

## 【Café みやまえ】

宮前市民館のロビーで市民の方が運営しているコミュニティカフェです。誰でも気軽に参加でき、1人でもふらっと立ち寄ることができます。

コーヒー片手に会話することで新たなつながりが生まれています。



## 【暮らしの保健室】

市内の数箇所で一般社団法人プラスケアが開催するまちなかの保健室です。病院に行くほどではないちょっとした悩みや病気を抱え、暮らす中での困りごとなど、まちなかで気軽に医療者に相談することができます。



## 【子どもの本のひろば】

小田急線読売ランド前駅に近い1軒家「ちゅうりん庵」で、毎週水曜日に開催されています。地域に無料で開放され、親子でふらっと立ち寄り、本と触れ合える居場所づくりを行っています。



## 【みどりなぐらし】

武蔵新城駅近くにある「NAYA enjoy space」にて、次世代を担う子どもたちにみどりあふれる地球を残すための講座やワークショップを実施しており、子育て中の親子の交流の場になっています。



## 【AirGreen】

新ゆりアートパークスのきれいな芝生の上で、朝のヨガや読書、ピクニックに昼寝。集まった人がそれぞれに好きなことをして過ごすことで、みんなにとって気持ちのいい場づくりを行っています。



# つくってみよう!「まちのひろば」

「まちのひろば」に参加するのもいいけれど、自分も居場所づくりをしたい! そんな方は「まちのひろば」の実践者になりませんか? 自ら場を持つことで、参加するだけでは得られない「訪ねてもらえる楽しさ」を味わうことができます。それでは、早速実践してみよう!

## はじめるまえの大切なPOINT

### 周りの人に話してみること

どんなことをやりたいのかをまずは周りの人に話してみてください。思いを伝えることで、企画を実行する際に必要な情報を教えてくれる人や、興味を持ち、一緒に活動してくれる人と出会える可能性が広がります。

#### STEP 1 話を聞きに行ってみよう。

まちのなかにはたくさんの実践者がいます。自分で「まちのひろば」をつくってみたいなら、興味・関心を持った取組にまずは参加して話を聞いてみよう。具体的なイメージづくりに役立つかも?

#### STEP 2 やりたいことを書き出そう。

いろいろな人の話を聞くことで、具体的なイメージができれば、やりたいことを書き出して、アイデアを膨らませよう。この時点で完璧なアイデアはなくてもOK!

#### STEP 3 どのくらいの規模で行う?

次にどのくらいの人数で行うかなど規模を考えよう。はじめは自分に無理なく、小さな規模で実験的に行くと、今後の課題や持続可能かどうかを見極めることができ、おすすめです。

#### STEP 4 具体的な開催場所を探そう。

どのくらいの規模で行うかを決めたら、場所を探そう。適切な場所が見つからない場合は、規模や内容を見直すことも必要です。場所代や備品使用料などの必要経費も確認しておこう。

#### STEP 5 実施にかかる予算はどれくらい?

どんなに魅力的な「まちのひろば」であっても、コストがかかりすぎれば実施も難しくなってしまいます。場所代など必要経費を計算したら、参加費を集めるなど収入と支出のバランスの確認も忘れずに。

#### STEP 6 実施までのスケジュールを描いてみよう

場所と合わせて実施日を決めたら、いつまでに何を準備するか具体的に決めていきます。必要な広報手段なども考え、スケジュールは余裕をもって設定しよう。

**さいごに** STEP1~STEP6の内容をノートに書き出したら、まずはやってみよう! トライすることで、新たなつながりやアイデアが生まれます。



## やりたいことメモ

プロジェクト名：ほん(本と本音)がたり・プロジェクト

やりたいこと：本を通じて、本音を語ることで、同世代のつながりづくりを行う

対 象：20～30代(学生・社会人問わず)

内 容：①アイスブレイク

②自己紹介&おすすめの本の紹介

③なぜその本をすすめたかの深堀

②～③を一人ずつ繰り返す。

④フリートーク

場 所：〇〇スペース

人 数：20名

回数・時間など：月1回、2時間程度

収支予算：【収入】 500円×20名=10,000円

【支出】 会場代1時間2,000円×3時間(準備含む)=6,000円

飲み物代1,000円、お菓子代2,000円 小計9,000円

【収支合計】 1,000円

スケジュール：10月1日 会場予約

11月1日 イベントチラシ作成、広報開始

12月1日 **開催日当日!**



# 「まちのひろば」お役立ち情報

企画を具体的に進めていくときに知っておくと便利なお話をまとめました。ご活用ください。

## ◎場所のおはなし

「まちのひろば」をひらくうえで、必ずしも固定の場所が必要ということはありません。それでも、人を集めて何かをするには、場所が必要になります。屋内か屋外か、駅から近いか遠いかなど、それぞれの場所のメリット・デメリットを事前に考えることがおすすめです。

「まちのひろば」は自分の家の庭をひらいたり、お店を活用したり、様々な場所で実践できますが、公共施設や空間を「まちのひろば」の取組で使いたい場合には、それぞれ必要な手続きが異なります。いくつかのポイントをまとめたので、ご参照ください。



「まちのひろば」ロゴマーク

## ◎会議室やホール、野球場など公共施設を利用したい場合

各区の市民館・教育文化会館、屋内・屋外のスポーツ施設等の市内公共施設は市民活動などのために借りることができます。施設の利用方法は、それぞれの施設にお問い合わせください。また、**川崎市公共施設利用予約システム(ふれあいネット)**に登録すると、ご自宅のパソコンやスマートフォン、各施設に設置された利用者端末から川崎市の公共施設の利用予約や空き状況を確認できるようになり、便利です。ふれあいネットでご利用可能な公共施設については、ふれあいネットホームページでご確認ください。

→ふれあいネットの利用者登録の詳細はこちら

URL : <https://www.fureai-net.city.kawasaki.jp/>



川崎市公共施設利用予約システム  
**ふれあいネット**

## ◎公園や道路など公共空間を活用したい場合

誰もが自由に利用することを目的とした公園や、本来人や車が通行するために設置された道路などを活用したい場合、それぞれの場所は設置の目的に照らし合わせて、必要な手続きが異なります。

### 公園・緑地 (多摩川緑地含む)

都市公園の全部や一部を利用するイベントを実施したい場合は「**公園内行為許可申請**」を行い、許可を受けることが必要です。

公園を使用したいと思ったときは、事前に**各区役所道路公園センターの管理課利用調整係**までお問い合わせください。

### 道 路

道路は**本来、人や車が通行するためのもの**です。各種イベント等を開催する場合は、「**道路使用許可申請**」を各所管の警察署に提出が必要です。また、イベント等において、道路上に物件等を設置する場合は、「**道路占用許可申請**」も必要となりますので、**各区役所道路公園センターの管理課利用調整係**にまでお問い合わせください。

※国道については、一部、国管理の道路もありますので、ご注意ください。

### 河 川

河川は**市以外に国が管理する場所や県が管理する場所**があります。利用したい場合は、どこが管理しているか、借りることができる場所なのかを確認することがまず必要です。

河川利用したい場合は、**早めに管理部署を確認し、ご相談**ください。

公共空間はみんなのものです。使用できない場合もありますので、早めにそれぞれを管理する部署にご相談ください。活用する場合には利用者や近くにお住まいの方々への配慮を忘れずに。



## ◎広報のおはなし

広報の方法はチラシを作成して配布したり、SNS を利用するなど、手段は一つではありません。どれを選択するかは印刷代などの予算やどの世代に伝えたいかによって異なります。

**チラシで広報** チラシ作成はワードやパワーポイントでも十分きれいなものが作れます。チラシには詳細を載せず、概要だけ伝えて興味を引くものもあります。一瞬で目を引くには**情報の引き算**も大切です。魅力的なデザインがわからない場合は、インターネット上やまちなかにある広告を見たと参考になります。また、置く場所に合わせ、サイズを考えて作ることも重要です。

**SNSで広報** SNSは費用をかけずにできる広報手段として人気です。一方で、利用するSNSによって使用している世代や載せられる情報が異なります。どのSNSも利用者に偏りがあるため、たくさんの人に伝えたい場合は併用もおすすめです。

Web上のフリー素材の使用は著作権  
や利用可能範囲等に気を付けて！

## ◎知っておくと便利！飲食と火気利用のおはなし

何かを実践するときには気になる「飲食」と「火気」のこと。知っておくと便利な手続をまとめました。

### 行事開催届

食品を調理して提供する際は、営業許可の取得が必要となりますが、寺社の縁日祭礼、町内会の夏祭り、バザー、学園祭等の行事については例外として届出で認められる場合があります。

行事で食品を提供する場合は、提供する食品の内容と調理方法等の確認が必要となるため、各区役所衛生課へ事前に相談し、届出を行ってください。

**Q. いつまでに届出が必要？**

2週間前まで

**Q. 手続きに手数料等はかかるの？**

無料です。

**Q. 届出に必要な書類は？**

行事開催届、出店店舗の配置図、所在地付近の地図、出店概要書、開催チラシ、パンフレット、実施計画書等概要が把握できる書類

**(受付・提出先)**

各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）衛生課食品衛生係

**詳細はこちら↓**

<http://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000035604.html>



### 露店等開設届

屋外イベント会場等で露店等を開設する場合、対象の火気器具等を使用する露店等では、消火器の設置準備と出店内容や使用する燃料等を記載した「露店等開設届」をあらかじめ所管の消防署に届け出る必要があります。

**Q. いつまでに届出が必要？**

イベント等の実施前まで

**Q. 手続きに手数料等はかかるの？**

無料です。

**Q. 届出に必要な書類は？**

露店等開設届、場所付近の見取図及び消火器の設置位置を示した配置図

**(受付・提出先)**

最寄りの消防署予防課予防係

**詳細はこちら↓**

<http://www.city.kawasaki.jp/840/page/0000060444.html>



継続的な実施等は一時的な行事開催届出ではなく、営業許可等が必要になる場合もあります。飲食や火気を使用する場合は、早めに問い合わせください。



# 「まちのひろば」実践例を紹介します！

はじめての企画は大変です。どんな広報をしよう？必要な手続きは何があるだろう？実践して難しかったことや工夫した点などを2つのプロジェクトの企画者に聞いてみました。

企画者の  
ゆりさんに  
聞きました

## 【介護スナック】

「高齢者の方が会話を楽しみながらお友達を作ることができる居場所づくりに挑戦してみたい！」

企画者のゆりさんは普段からお仕事でも介護の現場で活躍しています。その経験を活かして、「介護スナック」を開催しました。

### Q. 準備期間はどのくらい？

やりたいことは決まっていたので、具体的な実施方法や経費など大体2か月前から準備しました。

1か月前には企画を固め、広報を開始することができました。

### Q. 実践した中で難しかったことは？

対象者が高齢の方であり、開催場所まで車の送迎が必要になりました。

当日は運営のために開催場所から離れることができなかつたため、送迎を誰かをお願いする必要が生まれました。企画に賛同してくれた方々が快く車での送迎を引き受けてくれたため、無事開催することができました。

### Q. 実践してみたの感想

当日参加してくれた方が喜んでくれたのももちろん、参加できなかった方からも「参加したかった」という声があり、嬉しかったです。後日参加できなかった方でご飯会を開催するなど、次にもつながりました。

今回は1回目だったので、知り合いの方をメインにお声がけしましたが、初めての方もふらっと立ち寄れるような会を開催できたらいいなと思っています。



「まちのひろば」創出  
職員プロジェクトチーム  
メンバーに聞きました

## 【小田らんとん横丁】

いざ地震が起きた時に火災の延焼止めになる防災空地。「密集市街地である小田地区の防災空地をもっと知ってもらいたい！」という小田3丁目町内会の方と川崎市「まちのひろば」創出職員プロジェクトチームが連携し、イベントを開催しました。

### Q. どんな広報をしたの？

チラシを町内会で回覧したり、近隣小学校へ配布しました。地域の方に来てもらいたいイベントでは、広く発信をしなくてもその場所にあった広報を選択することで、たくさんの方に届くことがわかりました。

### Q. 工夫した点は？

イベントに来てくれた方に、防災空地でやりたいことをその場で付箋に書いて黒板に貼ってもらうオープンワークショップをやってみました。フリーマーケット、運動会、パパ会など、次につながるたくさんのアイデアが集まり今後の展開の参考にすることができました。

### Q. 今後の展開

オープンワークショップを通じて、防災空地でやりたいことがある人もいることがわかったので、その方々と一緒にイベントを実施してみたいと考えています。

イベントを企画し、実施するプロセスを楽しみながら、多くの地域の方に防災空地を知ってもらうとともに、素敵な交流が生まれたらと思っています。



# 「まちのひろば」を応援する川崎市の取組

## ○まちのひろばWA プロジェクト

「まちのひろば」は、そこに暮らす人々が気軽に立ち寄り、「和む」居場所であり、市民の主体的な「対話」を生み出し、地域をつなぐ「輪っか」となる、10年後の「希望のシナリオ」を実現するために必要な地域の居場所です。

「まちのひろばWAプロジェクト」は「まちのひろば」の概念と3つの「わ」に共感する人たちと協働しながら「まちのひろば」を見える化し、広げていくプロジェクトです。

参加方法は簡単！地域にひらいた居場所であることを宣言し、「まちのひろばのれん」をかざります。



※サイズ：12cm×9cm

興味を持った方はこちら↓

<http://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000109755.html>



## ○川崎市「まちのひろば」創出職員プロジェクトチーム

川崎市では、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、庁内公募により「まちのひろば」の創出を目指す職員プロジェクトチームを立ち上げ、22名の職員（令和元年度）が「まちのひろば」創出モデルの実践に向けた取組を進めました。

職員自らが実践することで、「まちのひろば」の創出に向けた課題や必要な支援などを学び、様々な業務に活かしていきます。



興味を持った方はこちら↓

<http://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/38-1-16-1-4-0-0-0-0-0.html>



## ●これからのコミュニティ施策の基本的考え方

川崎市では平成31（2020）年3月に「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」を策定しました。その中で、暮らしを取り巻く環境の変化がもたらす様々なリスクを回避し、川崎のまちの将来像を描いた「希望のシナリオ」を実現するための基本理念として『「市民創発」による市民自治と多様な価値観を前提とした「寛容と互助」の都市型コミュニティの形成』を掲げています。

その具体的な取組として、「まちのひろば」の取組を広げるとともに、多様な主体の連携により、市民創発によって課題解決する区域レベルの「新たなしくみ」として、様々な活動に対する支援やコーディネート機能などを担う「ソーシャルデザインセンター」の創出を進めていくこととしています。



興味を持った方はこちら↓

<http://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/38-1-16-1-0-0-0-0-0-0.html>





Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

発行元：川崎市

令和2(2020)年3月

(問い合わせ)

市民文化局コミュニティ推進部協働・連携推進課

TEL 044-200-2094

FAX 044-200-3800